

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100114		
法人名	医療法人 謙誠会		
事業所名	グループホーム 和庵		
所在地	大分市大字野田808番地		
自己評価作成日	平成23年2月21日	評価結果市町村受理日	平成23年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	厚生労働省のサーバーへ移行中につき、現在公表されていません。
----------	--------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分県大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然にあふれ、山々や田園風景が望める場所へ立地し、施設前の芝生広場や施設周辺では時季によって様々な植物が花を咲かせ、実をつける様を見ることができる。施設内はオール電化、バリアフリー、各所に手すりを配備し、採光窓が広く明るいことで、高齢者の居住空間として安心、安全、快適な空間を提供している。医療法人が母体であり、長きに渡り認知症高齢者の治療や在宅ケアに取り組んできた実績を活かしたケアに取り組んでいる。法人内の病院と診療所の機能を活かすとともに、常勤で准看護師を配置し、健康管理に対する医療体制を構築し連携を図っている。特に、医療法人であることを活かすべく、医師の医学的見地にもとづき、認知症高齢者の治療を含むケアの実践を目指し取り組んでいることが特徴である。

ホームから由布山、鶴見山が望め、周囲は自然豊かで四季折々の草花が楽しみ、利用者も落ち着いた環境の中で、平穏な暮らしをしています。同敷地内には医療施設や他の福祉施設があり、医療との連携も図られ充実したケアを提供しています。ホームの中では男女別々のユニットとなっており、それぞれの特長を生かし、女性はおしゃべりに花を咲かせ、男性は各自、自由に好きな時間を過ごし、利用者間のトラブルもなく充実した生活を送っています。各居室前には各自の写真を貼り、名前を表示しない等プライバシーの保護にも努めるなど工夫をした支援を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共生の生活づくり」、「社会参加の生活」を広義の理念とし、時間や思いを共有し共感できるよう心がけている。また、理念にもとづき年度毎に年度計画や方針を定め、より具現化した実践につなげている	毎月の会議にて職員全員で理念について話し合い実践に努めています。利用者一人ひとりに合った理念の捉え方で問題点を解決しケアの向上に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に地域行事が少ないが、地域施設への外出、慰問やボランティアの受け入れ、学校との交流会などの機会を確保している	小・中学生の研修、ボランティアの受け入れ、法人が開催する「お祭り」等に地域の方をお招きし交流を図っていますが、地域行事が少ない所であるため出向いて行くことが少ない。	自治会に加入し、地域交流に積極的に働きかけて行くことを今後の課題としています。日常的な相互交流を図り、地域との関わりを深めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての活動は限られるが、相談者への相談援助、代表者による講習会の開催、実習や体験学習の受け入れなどの取り組みを続けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、取り組み状況の報告、意見や情報交換の機会として活用している。会議内容を運営やサービスの質の向上に活かすべく、議事録となる報告書を作成し情報共有を図る	会議の内容を構成し意見が出やすいよう工夫をしています。利用者・ホームの現状や行事の報告を行い、課題や問題点について意見交換することにより、ホームへの理解を深めていただくと共にサービスの質の向上に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営状況の報告、相談、問題発生時には訪問指導を仰ぐ。市の担当者に運営推進会議に参加していただき、定期的な報告、連絡、相談の機会として活用している	2ヶ月に1度の運営推進会議の時にホームに訪れ見学をし、情報交換を行っています。市の担当者に、運営状況を報告したり、困りごとの相談や課題解決の話し合いをするなど連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルと研修により周知を図る。正しい理解のもと、生命の危険を判断基準としながら、適切な対応ができています	身体拘束に関するマニュアルが整備されており、職員の研修も行われています。日中玄関の鍵はかけず、見守りにて対応しており、外出される時は、寄り添い一緒に行動をしています。転倒の危険のある利用者にはベットをやめ、畳に寝ており、周囲の壁にはマットを置き安全面の工夫をおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修にて取り扱い、認識を深めている。虐待の発見が主目的ではないが、傷病の早期発見のため、日々の身体状態の観察を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修にて取り扱い、認識を深めている。関連する相談に対しては、制度や社会資源の利用方法など、相談内容に応じた情報提供等の支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結又は解約の際には、見学や面談の機会を持ち、書面と口頭にて十分な事前説明を行っている。日常的に利用者や家族の意向を確認し、不安や疑問を解消できるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を職員及び外部者に対する利用者や家族等の意見、要望表出の機会とし、運営に反映するよう活用している。信頼関係の構築を目指し、日常的に意見交換や意向確認を行っている	面会時にその都度声かけをして話を聞いたり、2ヶ月に1度家族に利用者の近況報告を兼ね広報誌を配布し家族の意見、要望を聞き運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々のミーティングで意見や提案を聞いている。意見や提案を共有し、運営に反映している。代表者は所属代表会議にて意見や提案を受け、運営方針などをともに検討する	会議では、職員の意見、提案など出しやすい雰囲気があり管理者も職員の意見によりケアの方向性やあり方を検討しています。管理者及び職員全員でケアの質の向上に努力されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、月毎に勤務表にて勤務状況の確認を行う。労働基準法に則った明確な遵守指示があり、福利厚生も充実している。年2回、全職員へ職場環境・条件に関するヒアリングを実施し、状況把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や事業所内研修を計画的に行い、人材育成を図る。常に法人外研修の通達を行い機会を確保している。資格取得のための援助を行い、従業員の知識・技術向上に取り組む		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間や職種別に開催される研修や勉強会等に参加する機会を設けている。相互の事業について、相談や訪問等の機会を持つようしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人の見学や面談の機会を設け、信頼関係の構築を図る。本人の意向に応じて不安の解消、要望の達成のための支援を行えるよう、計画しサービスを提供している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の知る本人の生活歴、問題などを聞くことにより、本人及び家族双方の意向を確認している。サービス導入後も家族への連絡や相談の機会を積極的に持ち、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向により、計画にもとづくサービスを提供している。必要に応じて他のサービス利用についての助言、利用方法の説明、相談窓口の紹介などの支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活内の活動(食事準備、片付け、洗濯、余暇活動)をともに行うことで、時間や思いを共有・共感することで、職員及び利用者同士の「共生」の関係づくりを図っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や計画作成時に近況について相談し、家族の意向を計画に反映している。面会の際には、談話や嗜好品の差し入れなどに協力してもらい、家族の絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が利用する他サービスの利用を継続したり、馴染みの方の面会も受け入れている。外出や外泊の際には、家族と馴染みの場所に出掛ける方もいる。馴染みの方へ便りを出す支援なども行う	利用者の生活歴から「こだわり」「趣味」等を把握し、サービスに生かしています。入所前に敷地内にあるデイケアを利用していた方は友人に会いに行ったり、訪ねて来たりと交流を続けています。又暑中見舞いのハガキや年賀状を馴染みの人に送る支援を行い関係の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や個性を把握しながら、良い関係を築けるよう図っている。他者との関わりに消極的な方には、職員とともにレク活動や創作活動、家事などに参加し、他利用者との関わりをもてるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても気軽に遊びに来ていただくようにしている。利用終了後の本人や家族について、必要時には情報提供や経過を確認するなど、相談や支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との対話を大切にし、思いや意向を表出しやすい雰囲気作りや、相談に即座に対応するよう努めている。把握が困難な場合は、本人の性格や生活歴、家族からの情報などをもとに検討している	普段の生活から、言葉による把握だけでなく、表情や態度によっても把握するよう努めています。又家族からの情報も集め「生きがい」をもって生活できるよう支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人や家族から情報を得られるよう、見学、訪問時に面談する機会を設けている。必要時は前サービス提供担当者、かかりつけ医等から、情報提供を受けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況の個別ケア記録、アセスメントやモニタリングの内容について、毎日のミーティングや毎月のユニット会議の機会に情報共有を図り、常に個々の状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、担当医、ユニット担当者からの報告をもとに、毎月のユニット会議にて協議し、現状における課題設定とサービス内容を検討している	ケア会議で職員の意見を細かく聞き取り、ケアプランに反映させています。又必要に応じて併設施設の医師や看護師、作業療法士に相談し協力を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録の在り方について研修等で周知、実践を図り、実践と結果、気づきや工夫が一時的なものとならないよう、ユニット会議などで協議し、対応方法や介護計画作成につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の有する通所、入院施設の機能を活用しながら多機能化を図っている。他職種間の連携により得られる情報や他職種協働により、ニーズに応じた柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に情報収集を行い、地域資源の把握に努めている。特に、地域の商業施設や観光施設などは、豊かで楽しい暮らしを実現するため活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関、医療体制を活かし、定期検査等の実施、適切な医療の提供、専門医を受診する体制を構築している。あわせて本人や家族の希望するかかりつけ医の受診支援も行う。	年に1回の定期健診や採血により、一人ひとりの健康管理支援に努めています。又急変時や変化が生じた時には迅速に法人内の医療機関を受診出来るという連携体制が整っています。他の医療機関への受診支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師を常勤配置し、健康管理を行っている。専門的視点で状態把握に努め、職員間、医師、家族と情報共有を図る。看護職を中心に、法人が有する医療機関、協力医療機関との連携体制を構築している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医、看護師、相談員と連絡を密に取るとともに、面会へ出向き状態把握に努めている。退院時は情報提供を得て、病状管理やリハビリなどの支援につなげる。利用の多い医療機関の関係者との関係も構築されている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に方針について書面と口頭にて説明を行うとともに、状態の変化にあわせて、本人や家族と再び重度化した場合の方針について、担当医も含めた協議の場を設け、方針の共有を図るよう努めている	重度化や終末期についての話し合いは利用開始前に説明をされており、状態の変化に合わせ、担当医、家族、職員、と協議し本人や家族の希望を尊重した支援への取り組みが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて、外部講師による講習を受ける機会を確保するとともに、急変時のマニュアル、緊急時の初動連絡体制を整備し、事業所内研修にて認識を深め、実践に資する機会を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な設備点検、年2回の災害避難訓練を実施している。各災害時のマニュアルを策定し、対応方法の周知を図っている。法人より災害時の協力を近隣自治会に依頼している	法人内で独自の防災組織を設け、災害避難訓練、通報連絡体制が十分整備されています。地域との協力体制は運営推進会議において自治会に呼び掛けています。	風水害についても、独自の対応に取り組んでいきたいとのことで今後の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関するマニュアルを策定し、事業所内外の研修にて認識を深めている。利用者の性格や生活状況を把握したうえで、常に人格を尊重し接するよう努めている	対人援助や守秘義務についての研修を重ね認識を深めており、名前の呼び方も本人の気持ちを大切に「心地よい」と思われる呼び方をするように取り組まれています。又情報等の管理も徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的に対話する機会をもち、思いや希望を表出しやすい雰囲気作りに努めている。思いや希望を達成する方法について助言するなど、自己決定に導けるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症治療の観点から、利用者が戸惑うことのないよう、目安となるスケジュールを立てているが、意向を加味したものとし、その時々思いや希望を聞きながら、柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に必要物品を備えるとともに、個人で必要な物があれば買い物などの援助を行う。衣類の選択などは本人の意思を尊重し、身だしなみに対する意識を常にもってもらえる環境作りをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに食事をしたり、準備や後片付けを行っている。使い易い、使い慣れた食器を用意し、自身の力を活かしている。食事内容についての意見や感想などを検食簿に記録し活用している	利用者の残存能力が発揮出来る場の提供や、記録を活かし行事食や好みのメニューが食卓に上がっています。又楽しみの一つとして、毎日手作りのおやつを用意しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が3食に茶話会時のおやつを含め、1日の栄養バランスを考えた献立を作成し、食欲増進のため盛り付けも工夫する。食事、茶話会を水分量確保の機会とし、食事量や水分摂取状況は記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを本人の力、職員の介助にて行う。夕食後は食物残渣の除去、洗浄剤を使用し義歯の洗浄を行い、誤嚥性肺炎の予防に努めている。訪問歯科の検診、治療、指導を受ける体制がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録にて排泄パターン、習慣を把握しながら、本人の力で排泄が困難な方への声かけ、誘導を行う。排泄動作が可能な方は、見守りのもと動作ができるよう支援している	記録から「個々の生活の流れ」を把握したうえでトイレ誘導、自尊心を傷つけないように配慮した声かけ、ADLに合った排泄介助の支援への取り組みが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録、チェック表にて排便状況を把握する。運動機会や水分、整腸作用のある食材などを提供し便秘予防を図るとともに、便秘時には看護職員、医師へ相談し対処している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	見当識への働きかけ、入浴日が分からず混乱してしまう方への対応などを目的に入浴日、時間帯を決めてはいるが、その時々希望にそえるよう柔軟に対応している	曜日により男性、女性の入浴日が決まっていますが一方的ではなく柔軟な対応となっています。又入浴介助には同姓の職員が対応出来るようローテーションの工夫も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な休息をとりながら活動を促し、就寝前には水分補給やトイレ誘導、室温や寝具の調整など気持ちよく眠れるよう支援している。不眠症状のある方については、医師に相談し対処している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすり手帳や処方薬説明書を個人ごとに保管し、把握に努める。服薬方法、副作用などの留意点や観察内容については医師、看護職員と連携し情報共有したうえで対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いなどで役割を持てるよう支援している。生活歴、趣味、特技に応じた創作活動を行ったり、嗜好品を家族に差し入れてもらう、気分転換に嗜好品の買い物に出掛けるなどの楽しみの機会を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望にそって外出できるよう支援している。買い物、気分転換の散歩などの希望があれば、個別に対応している。また、自然の多いホーム周辺の環境が大いに活用できる。面会時に外出に同行していただくなど、家族の協力も得られている	敷地内には同法人のグランドや売店、喫茶店が有り面会の折には自由に利用できる様になっています。又事業所の周囲には四季折々の自然が満喫出来、散歩コースや気分転換の場としても大いに活用されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を管理できる方には、本人、家族と相談し少ない額を所持してもらう。管理が困難な方は、当方が管理するが、外出、買い物などで使用する際など、本人に支払いをしてもらうなどの支援を行う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の負担などへ配慮しながら、内容に応じて電話をかけるなどの支援を行う。電話の応答に不安のある方は家族に面会をお願いするなど代替する。毎年、年賀状を作る活動を継続している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設構造上、共有空間で快適に過ごせる配慮がなされている。リビングや居室の窓からは屋外の季節の移り変わりを感じられ、採光窓からは穏やかな日の光が入る。季節感あるカレンダーや小物で穏やかな雰囲気作りを図っている	利用者の方々が心地よく、ゆっくりと快適に過ごせるように、明るく広々とした造りの工夫がされております。ソファやテレビの配置、壁面の飾り付け等それぞれのユニット事の工夫も見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファやダイニングテーブルなどで談笑したり、ともにテレビを視聴できる環境がある。その時々を利用者の様子で、ソファの配置換えや座る場所に配慮し、穏やかな時間が過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向に加え安全に配慮し、本人が居心地よく安全に過ごせる環境を整える。タンスや椅子、写真や賞状、小物など馴染み深いものを活かし、一人ひとりの個性ある居室の雰囲気作りを行う	入所前に本人や家族の方の意向を伺いながら必要な品々の持ち込みが行なわれています。又一人ひとりに合った寝具や馴染みの深い品を配置する事で、熟睡出来る環境を整え個性ある居室作りへの取り組みが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線を確保した造りになっており、安全かつ自由に行き来できる。必要箇所には手すりや目印が配され、自立した生活に役立っている。利用者に分かりやすい目印なども工夫している		